

2019/09/04【学習支援】第
10回教育力アップセミナーを
開催しました

○より効果的な授業のために

8月30日(金)、本学新任教職員を対象に、第10回教育力アップセミナーを開催しました。本セミナーは、「大学での教育活動における課題を教員や職員が検証すること」と「教員と職員で互いの問題を共有しながら、改善のための方法をともに探ること」を目的として毎年開催しており、主に今年度採用の教員及び在籍2～4年目を中心とする職員を対象としています。今年度は、教員9名と職員6名、合計15名が参加しました。

今回のセミナーでは、森河亮学習支援センター長の進行で3つのセッションが行われました。セッション1では、まず、近年の大学を取り巻く状況について解説がありました。少子化、社会の貧困化、グローバル化といった社会変容がどのようなインパクトを高等教育へもたらしたか、それに伴う大学の質保証とはどのようなものかを挙げ、本学の教育課題への対応やアクティブラーニングの必要性について学びました。

セッション2では、「学び方の個性」を知り、「違い」は成長の「チャンス」であると伝え、違いをポジティブに受け止めること、そしてデイビッド・コルブの体験学習サイクルについて解説がありました。体験学習サイクルは①実験、②ふりかえりと観察、③概念化・一般化、④試験・応用という4段階のサイクルで起こる学びのことで、目標達成のためにはそれをいかに回し続けるかが重要であることを学びました。さらに、アクティブラーニングの手法である「ライト・スクエア・シェア」の手法を用いて、「ミニツペーパー」と「PBL(Project Based Learning)」の手法について利点・欠点をグループ内で共有し、「違いから学ぶ」を実践しました。

セッション3では、「マグネットテーブル」と「ワールドカフェ」という手法を取り入れたグループワークとして、参加者各自が抱える教育課題の解決に向けて検討しました。各グループでは、「考える学生を育てる」、「広島県内志向の学生が多いこと・休学退学する学生が多いこと」、「コミュニケーション問題」、「学生の学習意欲」について、それぞれ意見交換がなされました。

参加者からは、「他の教職員の方が、どのような悩みを持ち、それに対してどのようにアプローチしているのかを知ることができてよかった」、「アクティブラーニングの手法を知ることができてよかった」などの声が寄せられました。

